

# 社 会 科

## I 社会科における教科構造（総論）

都 築 亨 織 田 長 繁 高 森 充  
加 藤 佳 孝 児 嶋 文 寿

### 1. 今までの研究の視点と経過

昭和47年度より中学校の、48年度より高等学校の、それぞれ指導要領が改訂されることを前提として、本校の社会科では、この二、三年来、中学高校を通して「社会科における教科構造」の問題を共同テーマに選び、社会科の教科内容、領域構造に検討を加えてきた。

とくに、中学校と高等学校が接続している本校の現状を生かし、中学・高校を一貫する社会科の教科内容を考えながら、

- (1) 教科書の比較検討を通じた教科構造の分析、  
(42年度地理、日本史、世界史)
- (2) 教材内容の配列、構成のくみかえによる学習過程の比較研究（37～42年度倫社、42～44年度政経）
- (3) 野外学習の計画的指導による分野構造の検討、  
(43～44年度地理)

こうした一連の問題のとりあげ方は、高度成長下における現実の日本の社会的変化、技術革新の波に即応して、社会科という教科の全体的構造とその内容を再検討しなければならぬ時期にさしかかっており、前述のそれぞれの視点から、こうした問題にせまろうとするわれわれの関心の在りかを示すものであった。

そして昨年までに、全体の主題を

「社会に生きる人間の発展と課題」

におき、その流れの中で、各学年の主題を、

7. (中1) 日本人の生活舞台と歴史
8. (中2) 世界の中の日本
9. (中3) 現代社会と人間
10. (高1) 環境と人間
11. (高2) 世界史の中の人間と国家
12. (高3) 現代社会と我々の課題

においてみた。

参考のために、各学年の学習内容の項目だけでもあげておくと次の通りである。

〔中1〕日本人の生活舞台と歴史

日本の地理

1. 身近な地域
2. 国土の自然と国民生活
3. 日本の諸地域
  - (1) 太平洋ベルト地域
  - (2) 中央高地

- (3) 西日本の日本海地域
- (4) 南海地域
- (5) 東北地域
- (6) 北海道

4. 日本と世界の結びつき

(歴史)

1. 日本の生活のはじまり
2. 日本の古代国家のはじまり
  - (1) 大和朝廷
  - (2) 聖徳太子と飛鳥文化
  - (3) 大化の改新
  - (4) 平城京と天平文化
3. 古代国家の推移
  - (1) 平安京
  - (2) 摂関政治
  - (3) 院政
4. 武家政治の成立
5. 武家政治の推移
6. ヨーロッパの動きとヨーロッパ人の来航
7. 全国統一と幕藩体制
  - (1) 天下統一
  - (2) 江戸幕府の成立と鎖国
  - (3) 農村と産業の発展
  - (4) 元禄文化
  - (5) 享保の改革
8. 幕藩体制の動揺
  - (1) 寛政の改革
  - (2) 化政文化
  - (3) 天保の改革

〔中2〕世界の中の日本

(世界の地理)

1. 世界の自然と住民
2. 世界の諸地域
  - (1) アジアの国々（モンスーン・アジア）
  - (2) 乾燥圏の国々（アラブ圏諸国）
  - (3) 世界史の中で重要な役割を果たしたヨーロッパ諸国
  - (4) 世界をリードするアングロ・アメリカ
  - (5) 混血の文明のラテン・アメリカ
  - (6) 社会主義諸国のリーダーリビエト連邦
  - (7) オセアニア
  - (8) 人類の利用と開発を待つ両極地方
3. 世界の中の日本

(歴史)

1. 文明の起こり
2. 古代アジア
  - (1) 古代インド
  - (2) 秦漢の統一とその文化
  - (3) 隋唐の社会・文化
3. ヨーロッパ世界の形成
  - (1) ギリシャ・ヘレニズム
  - (2) ローマ帝国とキリスト教
  - (3) ヨーロッパ封建社会

4. ヨーロッパの近代化
  5. ヨーロッパの発展
    - (1) ヨーロッパの専制政治 (2) イギリス革命
    - (3) アメリカ独立 (4) フランス革命
    - (5) 産業革命と民主主義の発達
    - (6) ドイツ・イタリアの統一
  6. 欧米諸国のアジア進出
  7. 明治維新
  8. 立憲政治の成立
  9. 近代日本の発展
  10. 列強のアジア・アフリカ支配とアジアの動き
  11. 第一次世界大戦
- 〔中3〕現代社会と人間  
(政経社)
1. 経済の構造と機能
    - (1) 経済の発展と経済体制 (2) 資本主義における生産と消費 (3) 貨幣, 賃金, 価格, 金融 (4) 財政の働らき (5) 日本経済の現状と課題 (6) 社会問題
  2. 国民生活と政治
    - (1) 日本国憲法の基本的原則 (2) 基本的人権と法 (3) 議会制の問題 (4) 選挙と政党
  3. 家族生活と社会生活
- (現代史)
1. 第一次大戦後の世界と日本
  2. 第二次世界大戦と日本
  3. 新しい日本と世界
- 〔高1〕環境と人間  
(系統地理) 地理A
1. 生活と地理
    - (1) 世界の人口分布と人類の諸集団
    - (2) 日本列島の人口分布と経済分布
    - (3) 世界の気候と大地形の分布 (4) 集落の地理 (5) 地図とその利用
  2. 資源と産業
    - (1) 経済立地論 (2) 世界の農牧業
    - (3) 世界の林業と水産業 (4) 世界の鉱工業
  3. 産業と国土開発
- (倫社)
1. 人間性の理解
    - (1) 人間と文化 (2) 人間形成の条件
    - (3) 青年期の問題
  2. 現代社会と人間
    - (1) 現代日本の人間関係 (2) 現代社会と文化
    - (3) 民主社会とその倫理
- (地誌) 地理B (地理Aでない場合にBを)
1. 地表と人類
  2. 世界の諸地域
    - (1) 世界の地域区分 (2) 開発途上の国々——
- アジア・アフリカ諸国 (3) 開発された国々——ヨーロッパ諸国 (4) アングロ・アメリカとオセアニア (5) ラテンアメリカ (6) 社会主義体制のソビエト連邦
3. 世界の産業と国土開発
    - (1) 経済立地 (2) 産業と国土開発
- 〔高2〕世界史の中の人間と国家  
(歴史)
1. 古代国家と古代文明の発展
  2. 東洋古代国家の成立
  3. 日本の古代国家の形成と発展
  4. ヨーロッパ世界の形成と発展
  5. イスラム世界の形成
  6. 東アジア世界の中における日本
- (倫社)
1. 人生観と世界観
    - (1) 近代以前の思想 (2) 近代の思想
    - (3) 日本の思想
  2. 現代の思想
    - (1) プラグマチズム (2) 実存主義
    - (3) 社会主義 (4) 現代思想の課題
- (地理) A
4. 世界の結合と世界の中の日本
    - (1) 世界の貿易 (2) 国家と国家群
    - (3) 地域空間の構造と変化
- (地理) B
4. 世界の結合と世界の中の日本
    - (1) 国家と国家群 (2) 地域空間の構造と変化
    - (3) 世界の中の日本
- 〔高3〕現代社会と我々の課題  
(歴史)
1. 近代ヨーロッパ社会の成立
  2. アジア専制国家と日本の封建社会
    - (1) チムール帝国 (2) オスマン・トルコ
    - (3) ムガル帝国 (4) 清の中国支配
    - (5) 織豊政権 (6) 幕藩体制の成立
    - (7) 鎖国 (8) 封建社会の動揺
  3. ヨーロッパ市民社会の発展
    - (1) アメリカ独立 (2) フランス革命, 産業革命, 二月革命 (3) ナショナリズムと自由主義
  4. 列強のアジア進出とアジアの近代化
    - (1) ロシアの東方進出 (2) 蘭, 英のアジア経営 (3) アヘン戦争以後の中国 (4) 日本の開国 (5) 明治維新 (6) 立憲政治の発達
    - (7) 条約改正
  5. 帝国主義とアジアの動き
  6. 第一次世界大戦
  7. 大正デモクラシーと国際協調

8. ファシズムと第二次世界大戦  
(政経)

1. 資本主義経済の構造と日本経済の諸問題
  - (1) 資本主義の発達と現代の経済体制
  - (2) 資本主義経済の循環と変動
  - (3) 金融・財政と国民経済
  - (4) 日本経済の諸問題と社会福祉の問題
2. 日本の政治
  - (1) 政治の機能と国家
  - (2) 日本国憲法の基本問題
  - (3) 現代日本の政治の特質と課題

(現代史)

1. 戦後の国際関係と政治の動向
2. 経済成長と教育・文化
3. 安保体制

## 2. 社会科の教科構造の問題点

社会科という一つの教科の中で、どのような科目(分野・領域)をどの学年のどの位置に配し、その内容を相互の科目の関連の中でどのように構成するか—それを一応社会科の教科構造とよんでおきたいが—という点を問題にしようとするとき、考慮の中に入れておかねばならない。あるいは究明すべきいくつかの問題点がある。

第一に社会科の中で現行の科目にない科目が必要であり、あるいは現在の科目の中で不要、解消されるべき科目がありはしないかという点である。

本年度の本校の研究協議会の席上、淑徳高校の社会科研究グループから、提案、報告をいただいたのは、1年において「社会科学の基礎」(仮称)講座4単位をおき、3年において、近代以後の世界史とならんで「現代社会の諸問題」をおきたいというプランであったが、地理は最少限に圧縮され、倫社、政経は、1年、3年の2つの科目に解消されることになる。

地理縮減案には反対もあったが倫社、政経には問題も多いので、1年に憲法と経済原論を中心とした社会科学の基礎を学習させることはかなり大きな支持を得た内容であったと思われる。

第二に中学校の社会科との関連、中学校では47年度の指導要領改訂によって、1年・2年を通して、地理と歴史を学習させるという、いわゆるπ型の構成をとることになるが、その内容をどのように確定するか移行措置の問題をも含めて目下検討中である。

第三に、一般的要請、即ち高度経済成長と技術革新

によって社会科の学習内容自体にかなり大きな変化を生んでいるということ。とくに工業化社会、脱工業化、情報社会化の波の中で、農業を中心に考えてきた地理や、経済の学習内容が大巾に変ってきているということである。その高度な学習内容を盛りこんだとき、進学率90%を越す高校生の質的状況が対応できるかどうかの問題もその一方には存在する。

第四に、その膨大化して来た知識量をどのようにして整理・精選してゆくかということが問題になる。一方ではその教育内容の精選が今後の大きな問題となるであろうということ意識しながら、一方ではその最重点的に選んだ課題に対して、既成の学問体系や教科の系統にかかわらず、多面的に切りこむような形での学習を考えることも必要となってくる。

本年度特に地理、歴史の学習についてとり上げたのは第四の視点であり、範例方式に近い学習を、地理の場合には郷土、野外学習の中で、歴史の場合には「近代」の歴史的激動期の学習の中でとりあげようとした。詳細はそれぞれ「地理の領域構造の検討」「日本史世界史の統一認識」で報告するが、一応われわれの共通認識としての範例学習の定義を参考のため掲げておきたい。

- (1) すべての教材領域からできるだけ完全に教材を選ぶのではなくて、重要な教材を重点的に選択する。
- (2) しかし、その教材選択は任意に偶然におこなうのではなくて、学問体系のなかから系統的に抽出すること。
- (3) 教授にあたって注入はさけ、生徒自身で問題を解決することを奨励する。
- (3) (4)の学習を突破口にして真の認識にまでたかめひろげる学習をする。
- (5) このような性格から従来の教科の枠をこえるばあひも多い。
- (6) 以上のような性格から指導要領は教科の目標のみを定め、実際の教授は教師にゆだねる「機能プラン」であることがのぞましい。

範例方式が社会科の学習方式の唯一のものではないし、問題はそれによって必ずしも解消しないけれど、現時点における社会科の指導の溢路を開閉するためには一応有効なものではないだろうか。

\*W. Kleinknecht Aufgabe und Gestaltung des Geschichts Unterrichts 三枝孝弘範例方式による授業の改造より引用